

ときめき人

Tokimeki bito



豊かな感性で「自分のイメージ」写し出す

登米総合産業高写真部

千坂大輔顧問、阿部晶子顧問、平果奈子部長、部員14人。写真左から、平果奈子さん(3年)、菅原龍輝さん(2年)、千葉瑠加さん(2年)

エプソン賞を受賞した作品「群集」



写真右上、右下、菅原龍輝さん撮影
写真左、千葉瑠加さん撮影



「背伸びしない『いつも通り』の撮影が結果につながったと思います。自分たちの作品が認められてうれしい」と笑顔を見せる3人。

「TopEye 全国高校生写真サミット 2017」は2月3日から5日まで、横浜で開かれ、登米総合産業高写真部が「エプソン賞」を受賞した。同サミットは、中高生を対象に発行している写真部応援マガジン「TopEye」で実施されている「フォトフォトサロン」コンテストの上位校が参加。

サミットへの参加は1校3人。同コンテスト入賞作品を撮影した平部長は確定。残り2人を、千坂顧問、阿部顧問と平部長の3人で話し合った結果、菅原さんと千葉さんが選ばれた。「部員全員頑張っていますが、2人は感性も豊かで特に努力して

ます」と千坂顧問。

サミットでの共通テーマは「キズナ。横浜」。「初めての経験で緊張すると思いましたが、部長のリードでいつも通り楽しんで撮影できました」と菅原さんと千葉さん。2日間で撮影した約800枚の中から、菅原さんのものを2枚、千葉さんのものを1枚選んだ。平部長は「よいものを3点を選びました」と自分の作品にこだわらない。その結果が受賞につながった。

今回の受賞が「自信になった」というものの、「写真で一番楽しいのは、イメージ通りのものが撮れたとき」と語る3人。3人と一緒に、部員全員が「一番楽しい」瞬間を求め、今日もどこかでシャッターを切っている。

編集後記

▼早いもので、また1年が過ぎようとしている。周りを見る余裕もなく、ただ走ってきた気がする。後ろ向きは嫌だが、振り返りは大切。振り返れば、多くの人に支えられての1年だった。ここ2、3カ月は特に感じていた。新年度は立場を逆に、支える人間になりたい。(及川)

▼原稿締め切り直前に、まさかのインフルエンザに罹り、周囲の皆さんに大変迷惑をかけてしまいました。いつもながら、サポートしていただく皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、新年度は計画的に仕事をしていきたいと思えます。(千葉)

▼3、4月は卒業や入学、転勤などさまざまな別れと出会いがある時期です。私たちは取材でたくさんのお会いがあります。その出会いは偶然ではなく必然ではないでしょうか。「一度切りかもしれない」と胸に刻み、今後も仕事に取り組みでいきたいと思います。(田代)



モバイルとめ (携帯電話版ホームページ) http://www.city.tome.miyagi.jp/m/



登米市メール配信サービス (防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) http://tomecity.mail-dpt.jp/